

根津鋼材

甲府事業所のスリッターライン

電気設備を全面更新

基幹システム導入で加工体制最適化



根津鋼材カラーに一新した甲府事業所①、独自の基幹システム「N-コネクト」を導入、加工指示などはモニター表示

根津鋼材（本社・東京都荒川区、社長・根津訓光氏）は、2025年10月に澤田産業から営業譲受して開設した中部事業部・甲府事業所（山梨県笛吹市）において、スリッターラインの電気設備の全面更新を完了し、本格稼働を開始した。山梨県内で唯一のコイルセッター（CC）として



電気設備などを更新したスリッターライン

継続的に設備投資を図り、地場ユーザーからの信頼を強固にしてB2B（事業継続計画）CP（事業継続計画）対応や事業の永続性を

高める。同時に全社的な加工体制の最適化やDX推進も急ピッチで進めている。同事業所（敷地約1万平方メートル、工場2千平方メートル）の建設は1988年の建設。今回、継続的に設備投資を図り、地場ユーザーからの信頼を強固にしてB2B（事業継続計画）CP（事業継続計画）対応や事業の永続性を

刷新。制御盤やモーター、自動セパレーター、ベルトフライドル、コイルカー内蔵秤量機を更新した。27年6月にはレベラー（同0・3×3・2×幅1600mm）でも電気設備を更新するほか、パイラーやデジタルカウンタ、枚数計測機も導入する。工場内にはこのほか、小割り用ミニスリッターや計5基のクレーンも備える。

作業環境の改善にも注力する。既存の外壁と屋根は根津鋼材カラーに変更し、他拠点同様の暑熱対策を実施したほか、27年には大型天井ファンも導入予定だ。年内には事務所のフルリノベーションも完了させる。将来的には再生可能エネルギーを活用し、カーボンニュートラルで稼働するCCを目指している。立地は中央道・一宮御坂インターから約2キロと至便。半導体関連や通信機器、自動車部品、配電盤、建築金物など幅広い地場ニーズに対し、酸洗や冷延、ボンデ鋼板などをタイムリーに納入する体制を構築している。今回の設備投資に伴い、全社的な拠点最適化も推進する。浦安事業所、青梅事業所などから中部地区向け加工を甲府へ移管する。甲府事業所には独自の基幹システム「N-コネクト」を導入済みで、受注から出荷までを一気通貫で自動化しペーパーレス化を実現した。甲府では工程管理を行わず、青梅から遠隔で工程指示を行う体制を構築しており、生産性と運営効率を最大限に高めている。